

早稲田大学 人間科学学術院 人間科学会 諸費用補助成果報告書 (Web 公開用)

申請者 (ふりがな)	佐藤 瑠美 (サトウ ルミ)
所属・資格 (※学生は課程・学年を記載。卒業生・修了生は卒業・修了年月も記載)	修士課程 2 年
発表年月 または事業開催年月	2023 年 10 月
発表学会・大会 または事業名・開催場所	日本認知・行動療法学会
発表者 (※学会発表の場合のみ記載、共同発表者の氏名も記載すること)	佐藤瑠美, 管思清, 富田望, 熊野宏昭
発表題目 (※学会発表の場合のみ記載)	瞳孔径変動を用いた意図的・非意図的マインドワンダリングと課題集中状態との比較
発表の概要と成果 (抄録を公開している URL がある場合、「概要・成果」を記載した上で、URL を末尾に記してください。また、抄録 PDF は別途ご提出ください。なお、抄録 PDF は Web 上には公開されません。)	
<p>【目的】</p> <p>マインドワンダリング (Mind-Wandering; MW) とは外部環境や進行中の課題から注意が逸れることをさす現象である (Smallwood & Schooler, 2015)。MW は、自ら従事して行く意図的 MW と、制御することができずに生じる非意図的 MW に区別される。</p> <p>近年の研究では、MW と瞳孔径の関連性が報告されている。MW 状態では、タスクに集中している状態に比べて瞳孔が小さくなることが報告されており (Unsworth & Robison, 2016)、課題集中状態に比べて MW 状態 (課題に無関連なことを考えている場合) には瞳孔径が小さくなることが報告されている (Konishi et al. 2017)。このような MW 中の瞳孔径の変化は課題から注意が逸れている状態であるため起こっていると考えられている。</p> <p>今後、瞳孔径といった生理指標から MW の有無を判別することができれば、従来の方法と異なり、課題を中断することなく客観的に MW を評価することが可能になると期待できる。しかし、MW の意図性と瞳孔径の大きさの関連は明らかではない。</p> <p>【方法】</p> <p>対象者 大学生 21 名 (男性 5 名, 女性 16 名, 平均年齢 : 平均年齢 21.05 歳, SD = 1.32) を分析対象とした。解析に用いた瞳孔径データ数は右目で 54267 個, 左目で 58129 個となった。</p> <p>調査材料 〈BR〉 (a) フェイスシート: 年齢, 性別〈BR〉 (b) The sequential Sustained Attention to Response Task (以下, 順次版 SART; Seli et al., 2016): 順次版 SART 中に思考プローブを用いて MW の意図性の測定〈BR〉 (c) 瞳孔径: 課題開始前の瞳孔径と MW に伴う瞳孔径を測定し, z スコア化を行った。z スコア化については, 結果で説明を行う〈BR〉 (d) スタンプフォード眠気尺度 (SSS; Hoddes et al., 1973) 日本語版: 課題前後の眠気を測定し, 除外基準として用いた。</p> <p>〈BR〉 【結果】</p> <p>〈BR〉まず, 先行研究 (Konishi et al. 2017) を参考に, 参加者それぞれの思考プローブ呈示直前に得られた個々の瞳孔径のデータから, 個人のベースラインの瞳孔径の平均値を引き, 個人のベースラインの瞳孔径の標準偏差で除すことで, Z スコア化をおこなった。</p> <p>〈BR〉回答内容 (課題集中状態, 意図的 MW, 非意図的 MW) を独立変数, z スコア化した瞳孔径を従属変数として線形混合モ</p>	